

令和6年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

1 本年度の学校経営方針

(1) 学校教育目標

ともに学び、仲よく遊ぶ児童を育てる ～自ら考え、学び合い、志を高く～

(2) 校訓

【明く】

【清く】

【強く】

めざす学校像

- 1 保護者、地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校
- 3 環境が整備されたうるおいのある学校

めざす児童像

- 1 あいさつができ、友とわかり合う子
- 2 真剣なまなざしで学習にのぞむ子
- 3 健康で明るく元気に遊ぶ子

めざす授業像

- 1 児童全員が主体的に参加する授業
- 2 児童同士の関わり合い、学び合いがある授業
- 3 言語活動をとおして、伝え合う力を高める授業

求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上をめざす教師
- 3 児童の人権を大切にする教師

(3) 学校経営の基盤とするもの

- 人権尊重の精神を基盤とし、安全・安心で、学びがい、応援がい、働きがいのある学校をめざした学校経営を行う。
- ・児童のよさや可能性を伸ばさせ、自己肯定感や自己有用感を高揚させる指導の充実を図る。
 - ・すべての児童に基礎・基本の徹底を図り、主体的に学び続けるための指導方法の工夫改善を図る。
 - ・児童が安全で安心して生活できる校内体制整備と充実を図る。
 - ・保護者・地域とともに歩む学校づくりを進める。
 - ・すべての教職員が、職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、塩屋小の一員であることを誇りに思う「働きがいのある学校」をめざす。

【総合的な学校関係者評価】

(4) 重点課題

① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・学校評価、保護者アンケートの教育活動への反映
- ・ふるさと意識の醸成

② 学力向上への授業改善・授業力向上

- ・児童の学習意欲を喚起し、全員が主体的に参加できる授業づくり
- ・学び合いがあり考えが深まる授業づくり
- ・基礎学力を獲得できる授業づくり

③ 配慮を要する児童への対応

- ・児童の実態と内面理解に基づいた指導と支援
- ・就労までを見据えた保護者との共通理解と関係機関連携
- ・常に「気にかけて」「目をかける」意識

④ 特別支援教育の更なる充実

- ・職員の理解と実践力の更なる向上
- ・校内指導・支援体制の確立
- ・関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究・実践

⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・きまりを守ろうとする意識
- ・行儀・礼儀の心と公共の精神を高める指導
- ・相手を意識し、大切にすることを基盤とした言葉遣い

⑥ 危機管理意識・管理体制の確立

- ・安全配慮義務の徹底と対応マニュアルの見直し
- ・防災体制・防災意識と地域安全体制の確立
- ・食物アレルギーへの理解と対応の体制

⑦ 不登校の解消・いじめへの対応

- ・未然防止のための魅力ある学校づくりの取組
- ・早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・家庭・関係機関・学校の情報連携と行動連携の強化

⑧ 学校組織力の向上・学校業務改善

- ・教育目標・重点課題の共有化
- ・職員の協働体制、成果の共有化
- ・学校業務の工夫改善
- (子どもと向き合う時間の確保、メンタルヘルスの保持増進)

・もう少しすすんで挨拶のできる小学生になってほしい。そのためには、さらなる地域のつながりを深めなければならない。

・全体的にアンケートの数値がとてよく、学校に行くのが楽しい、友達も自分も大切にできるということが何よりよいことだと思います。学校に行かせてもらう度、学校の雰囲気がよいと感じます。職員同士の関係が良好であることでよい雰囲気になり、それが子供達にも、ひいては保護者にも伝わっているのだらうと思います。学校行事に参加させてもらう度、子供達の一生懸命な姿に心打たれます。これからも成長していく子供達を楽しみにしています。

・児童の行儀・礼儀および公共施設を大切にする意識、決まり事はしっかり守ることの指導は必要です。保護者が地域行事にあまり参加しない傾向があるので、学校運営と同様に参加の推進をしていくべき。

・大きな災害を想定した避難訓練を随時実施して児童が防災意識をもってほしい。また、家族で避難場所などを話し合ってもらいたい。

・大きな問題もなく、無事に子供達も過ごせたと思います。これから、少しずつでも共に成長できていければと思います。

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される児童の姿)				
① 保護者・地域との連携	項目	児童の主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート	B	○児童アンケートの結果から「学校に来ることが楽しい」と答えている児童が89.9%であった。また、保護者アンケートでは学校の学習、体験活動、行事など様々な活動の中で成長が感じられるという意見があった。その結果から、体験活動、行事等で児童に付けたい力を明確にし、全職員で共通理解して取り組んでいく。
	指標	毎日楽しく学校に来ている	保護者アンケート		
	項目	各通信・参観日等オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート 学校・学年通信 ホームページ	A	○保護者アンケートでは約90%が「学校の様子がわかる」と答えている。今年度も参観日や行事などで学校や子ども達の様子を伝えることができたので、今後も連携の機会とらえて大切にしていきたい。 ○各通信やホームページで学校の様子を伝えていくことが保護者・地域の理解につながるので、これからも情報発信に努めていく。
	指標	学校からの連絡を家の人に伝えている	保護者アンケート		
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 学級懇談会 個別面談	B	○学級懇談会や個別面談などで家庭学習の習慣の大切さを保護者に働きかけていく。 ○これまでの自主学習を「パワーアップ学習」に変更し、その経緯を保護者に説明することで、学校と家庭が連携して基礎基本の定着を図ることができた。今後も連携を大切にしていきたい。
	指標	家庭学習を家庭でこなし、きちんと提出している	保護者アンケート		
② 確かな学力	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するよう努めたか	児童アンケート 学力テスト パワーアップ学習	B	○児童アンケートから高学年の数値がやや低い。今後はさらにベア学習やグループ学習など様々な学習形態を取り、学び合いの機会を設けることで、分からないことを伝えるような主体的・対話的な学びの形への近づけるようにしていきたい。 ○全国学力学習状況調査の結果分析を全職員で共有し、今後必要な力をどのように付けるかを検討し、実践していく。 ○タブレット端末や児童生徒支援教員を活用することで、個別最適な学びの充実を図る。
	指標	学校の勉強が楽しく分かりやすいと感じている	保護者アンケート		
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等	B	○今年度は自ら考え、分かったことを発表したり書いたり「思考力」や「表現力」を伸ばしていく授業づくりを行った。児童アンケートから1学期からわずかに伸びがみられる。今後も体験学習と結び付け、グループ研究や発表の場を多く取り入れることで、表現の力を付けていき、それが実感できるように児童による自己評価を行っていく。
	指標	学習内容を目当てに沿ってまとめたり発表したりすることができる	保護者アンケート		
	項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート パワーアップ学習	B	○今年度は家庭学習をドリル学習に変更して基礎基本の定着を図ったり、弱点克服や自主学習を進めるための「パワーアップ学習」を全校挙げて取り組んできた。これからは家庭学習の内容・量・方法を吟味して、学力向上につなげていきたい。
	指標	学年相応の漢字・計算を確実にこなすことができている	保護者アンケート		
③ 健やかな体	項目	「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか	児童アンケート 生活実態アンケート 早寝早起き朝ご飯運動	B	○「早寝・早起き・朝ごはん」運動では、「家を出る①時間前に起きる」「団らの時間を大切にする」等の重点目標を家庭に通知する。特に推進週間には特別活動で取り上げ学校でも指導していく。
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん運動」の目標を設定し、守っている	保護者アンケート		
	項目	望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート	A	○コロナ禍も終わり、改めて給食のきまりについて検討し指導をした。手洗いを徹底する衛生面や、みんなで食事をする際のマナーや社会性を指導するとともに、楽しく食べることや栄養面の指導の充実も図っていく。
	指標	給食のきまりを守って食べている。	保護者アンケート		
	項目	一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 新体力テスト 体育のあゆみ	B	○児童アンケートの結果では多くの学年で低い傾向がある。現在、体育倉庫を開放し、楽しめる外遊びを実践中である。今後も取り組んでいきたい。 ○体育科との関連を図ったり、係活動等を活用したりすることで、外遊びのしやすい環境づくりに努める。 ○新体力テストや「体育のあゆみ」の結果を考慮し、研修を充実し、体育学習の指導法を改善する。
	指標	外で元気に遊んでいる	保護者アンケート		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	◎	・コロナ等感染症も落ち着いてきているので、より「開かれた学校」として、地域活動にも参加をお願いしたい。 ・学校に来ることが楽しいと思えることは、何よりすばらしいと思います。また、保護者も学校の様子がよくわかると答えている点において、学校の努力がうかがえる。 ・学校からの連絡を家の人に伝えることはなかなか伝えにくいので、今後も様子を伝えるよう努めてほしい。 ・家庭で上手に時間を使いながらバランスを取り、心身共に健康であってほしい。 ・地域との連携もうまくとれていると思われませんが、年度をまたぐ時に、データ等の引き継ぎがうまく取れていないところが見受けられます。(地域関連で)
○	◎	・グループ活動等で各々の子供達の個性を發揮させ、自主的に学習等に取り組めるよう気配りをお願いしたい。 ・自主的に学び表現することで探求心が高まっていくと思う。グループディスカッションをし、プレゼンすることはこれからとても大切な力になっていくと思う。 ・児童が自ら考え、わかったことを発表する思考力・表現力はアンケートでは低いので、伸ばしていく授業を多く取り入れる。 ・自信をもつことが大切であるから、それには先生や保護者が児童のよいところを褒めて自信をもたせてほしい。
○	◎	・数年のコロナ禍で、子供の生活習慣が変わってしまった。今後は、楽しい外遊びができ、体力アップにつなげられるような教育環境整備に努めてほしい。 ・休み時間に外遊びをする時間がないのか、高学年の数値が低いのは気になる。しかし、倉庫から自由に体育用具を使用できるようにしたり、先生と一緒に外に出たりと工夫がみられる。これから気候が良くなるので、外遊びも増えることを期待する。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動は、家庭での生活を保護者とも働きかけて継続していく。 ・なかなか外遊びの時間がなかったりするので、評価が低いと思います。外遊びの工夫がわからないのかもしれない。 ・食育の指導をすることも大切。 ・ゲームの要素を含む体をを使う遊びを考えてみる。(得点を競うような遊びなど)

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組) 評価指標及び目標値(期待される児童の姿)		評価資料等	達成状況	改善の方策
④ 豊かな心	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート	A	○教育支援委員会など各種委員会を定期的に行うことで、児童に寄り添う指導を行う。また、支援の必要な児童は職員会議で全職員で共通理解する。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、相談活動をさらに充実する。
	指標	困ったことを相談することができる	保護者アンケート		
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート	A	○保護者アンケートでは「自分や友達を大切にできる心が育っている」が約97%と高い数値であった。今後も、児童が互いの違いを認め合い、一人一人を大切にしたい集団づくり、学級づくりを行う。 ○日々新たな人権問題が出てくる中で、その都度、職員研修を行い、人権に対する感覚を共有していく。
	指標	友達の良さががんばりを見つけ、広めようとしている	保護者アンケート		
	項目	全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的実践力を育成するように努めたか	児童アンケート	A	○道徳科だけではなく、道徳教育の全体計画のもと、各教科等の特質に応じて道徳教育を推進する。 ○それぞれの学年・学校行事や体験活動等と結びつけることで、道徳科で学んだことを生活の中で実践できるようにしていく。
	指標	道徳の時間で学んだ価値を、生活の中でいかそうとしている	保護者アンケート		
項目	学級活動や学校行事に進んで参加し、学級や学校の諸問題の解決に努めるように指導したか	児童アンケート	B	○学級活動や児童会活動を充実させ、問題意識をもちながら、児童の主体性を育む取り組みを充実させていく。 ○「兵庫版キャリアパスポート」や「塩屋小キャリアノート」を活用して、児童が自分の変容や成長を実感できるよう指導していく。 ○学校行事等で児童の体験活動を充実させていく。	
指標	仲間と協力しながら活動したり、自分達の諸問題を解決しようとしている	運動会・音楽会等 兵庫版キャリアパスポート 保護者アンケート			
⑤ 生徒指導	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 個別面談	A	○児童・教職員・保護者アンケートともに高い数値であった。今後も学校のきまりや学校生活目標等を、生活指導委員会を中心に全職員共通理解のもと継続して指導にあたる。 ○学校生活目標を可視化し、発達段階に応じて児童が評価しやすいような工夫を行っていく。
	指標	きまりを守り、正しい生活を心がけている	保護者アンケート		
	項目	いじめ・不登校等の諸問題について、迅速に組織的な対応をするとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしながら、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 学校生活アンケート	A	○いじめアンケートの結果をもとに、未然防止の観点から小さな案件もいじめと捉え、早期対応する。 ○いじめを解決したあとも、児童や保護者に3ヶ月後を目途に必ず様子を確認する。 ○不登校児童の保護者との連絡を密にし、支援をさらに充実させる。
	指標	困っている友達に関わろうとしている	保護者アンケート		
項目	道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか	児童アンケート	A	○児童の実態を把握して、「善悪の判断」「規範意識」に重点をおいた道徳科年間指導計画を作成し、計画的に道徳科の授業を行っていく。 ○運動会や音楽会などの行事や学年での体験や行事、学習活動の中で、発達段階に応じてきまりについての指導を行い、理解を深める。	
指標	物事の善し悪しについて理解し、言動に表している	保護者アンケート			
⑥ 児童をとりまく環境の整備	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート	B	○毎月の安全点検を教職員が分担して行い、児童にとって危険な箇所を速やかに修繕できるように来年度も継続して行う。 ○安全教育を徹底させるために、生活目標、交通安全、災害訓練などを充実させていく。特に災害訓練は各家庭、近隣の保育所や幼稚園とも連携していく。
	指標	生活目標をきちんと守って生活している	保護者アンケート		
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート	A	○児童・教職員アンケートから無言清掃や整理整頓を意識していることがうかがえる。生活指導委員会を中心に「無言清掃」の継続的な取組を続けており、引き続き教職員が共通理解して指導していく必要がある。
	指標	掃除をすることの意義を理解し、美しい環境を保っている	保護者アンケート		
項目	友達を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート	A	○友達を大切にしたい呼び方をしている児童が97%と高い数値である。名前を大切にすることが、友達を大切にすることであることを全教職員が共通理解して、よい習慣を定着できるよう指導していく。	
指標	友達を大切にしたい呼び方をしている	保護者アンケート			

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、下記のA・B・C・Dで自己点検を行い、ポイントに換算し、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	・小グループやクラスで話し合い、討論し合う機会を設け、子供達が自主的に参加できる教育環境の整備をお願いしたい。 ・友達を大切にすると共に自分を大切にできることはすばらしいと思う。個々を尊重できることで、グループでの学びや行動にもよい影響があるものと思う。行事や体験で学んだことがうまくつながってくれたらいいと思う。 ・児童が困ったこと悩みごとを職員に相談できる空気づくりも必要です。
◎	◎	・この頃家庭でおそろそかになってきている人としての最低限のしつけを大切に子供達に徹底して、いじめの生まれにくいクラス、学級にしてほしい。 ・全学年で高い数値で学校と保護者の関係が良いことがわかる。学年ごとではなく、全職員の共通認識で指導ができることで、子供にも伝わりやすいし、職員同士相談しやすい環境ができてとても良いと思う。 ・いじめを未然に防ぐため、児童のアンケートは必要であるので、アンケートを実施して早期防止に努めてほしい。
○	◎	・子供が事故や事件に巻き込まれないよう事前の教育・研修に十分努めてほしい。(交通安全・スマホの使い方・非行防止等) ・職員が同じ方向に向けて指導できていることで97%という高い数値になっていることがわかる。災害訓練においては、地域・保護者を巻き込んだ訓練ができればいいと思う。 ・安全点検は常に目視実施し、児童の災害防止に努めてください。 ・評価が高いので安心できます。目標を意識付けできるような指導に努めてください。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

- 学校行事やPTA活動を基軸とし、保護者・地域との連携を意識して教育活動にあたる。
- 体験活動やキャリア教育の充実を通して、自ら学ぶ態度の育成を図る。
- 児童が自分自身に対して肯定的に評価ができるよう、児童の学び合いを充実させ、自尊感情の高揚を図る。
- ICT機器(タブレット端末)を活用させて、学力の定着を図る。。

○授業改善、教師の指導力の向上に努め、児童の思考力・判断力・表現力を養い、仲間と協働して問題解決に取り組めるようにする。